

II-106

海水浴客および海岸部住民を対象とした
海辺のにおいに関するアンケート調査

阿南工業高等専門学校 正会員 樋口隆哉

1. はじめに

近年、我が国ではゆとりと安心感のある自然豊かな地域環境整備に対する人々の要求が高まり、海辺においても人工海浜など人々が親しめるアメニティ的要素を持った設備が建設されている。アメニティが人間の五感を通して評価されることを考慮すると、様々な感覚を総合的にとらえることが必要であり、嗅覚要素としての海辺のにおいも快適性を考える際に不可欠であり、重要な役割を果たすことが考えられる。そこで本報では、海辺環境におけるにおいの位置づけを明らかにすることを目的として、海水浴客および海岸部住民を対象として海辺のにおいに関するアンケート調査を行った。

2. 調査方法

1) 調査対象 海水浴客としては、徳島県阿南市の北の脇海水浴場および鳴門市の鳴門海水浴場への来場者を対象とした。また、海岸部住民としては阿南市の北の脇海岸周辺居住者を対象とした。

2) 調査項目 調査項目は表-1に示す通りであった。

3) 調査方法 各調査対象に対して性別、年齢を問わず直接面接法で調査を行った。

4) 調査時期 海水浴客に対する調査は平成9年8月11

日に北の脇海水浴場、同13日に鳴門海水浴場で実施した。

また、海岸部住民に対する調査は平成10年1月28日、30日、2月1日の3日間にわたって実施した。

3. 調査結果および考察

有効回答者数は海水浴客が48人、海岸部住民が78人であった。

3.1 においの有無

「海でにおいを感じるか」という質問に対する回答結果を図-1に示す。海水浴客では回答者全員が「はい」と答えているが、海岸部住民では「慣れている」という回答が41%で最も多く、際だった違いが認められる。また海岸部住民に関しては、1日の在宅時間、居住年数が長いほど「慣れている」と回答する傾向が認められた。

3.2 においを感じる場所

「においを感じる場所」の回答結果のうち、主なものを図-2に示す。海水浴客では「港」、「磯」が多く、「砂浜」が続いている。「港」と回答した人の中には近畿地方から徳島にきている人が多くみられ、各地域の海岸構造の違いが背景にあると

表-1 アンケート調査項目

項 目	海水浴客	海岸部住民
海でにおいを感じるか	○	○
感じる場所	○	○
においの質	○	○
においの強さ	○	○
においの強い時間帯	○	○
においの強い天候	○	○
においの強い季節	○	○
においの快・不快性	○	○
においがある方がいいか	○	○
1日の在宅時間	○	○
居住年数	○	○
海水浴に来る回数	○	○
どこから来たか	○	○
鼻に関する症状があるか	○	○
年齢	○	○
性別	○	○

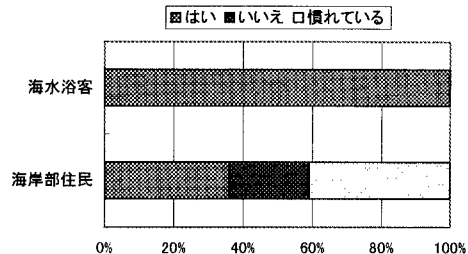


図-1 においを感じるか

キーワード：海辺、快適性、におい、磯、港

〒774-0017 徳島県阿南市見能林町青木265 Tel : 0884-23-7194 Fax : 0884-23-7199

考えられる。一方、海岸部住民では「磯」が際だって多くなっており、においに慣れているとはいいながら磯のにおいは意識しやすいという傾向を示している。

3.3 においの強さ

「においの強さ」の回答結果をまとめたところ、海水浴客では磯のにおいを「普通」と答えたのが55%であったのに対し、港のにおいを「強い」と答えたのが74%に上り、場所によって明らかに違いが認められた。海岸部住民では、磯のにおいを「強い」と答えたのが59%であったが、においに慣れている人が多かった中で「磯はにおいが強いために感じる」と回答した人もかなり存在し、その影響がこの結果に表れていると考えられる。

3.4 においの快・不快性

「においの快・不快性」の回答結果のうち、主なものを図-3に示す。海水浴客、海岸部住民ともに磯のにおいに関しては「快」が70%を超え、逆に海水浴客の港のにおいに関しては「不快」が70%を超えている。また、においの強さと快・不快性の関係について検討したところ、港のにおいを「強い」と回答した人はほとんど「不快」と答えているのに対して、海岸部住民では磯のにおいを「強い」と答えた人の大部分が「快」と回答しており、においの種類による明らかな違いが認められた。

3.5 においの有無の希望

「においはある方がいいか」という質問に対する回答結果を図-4に示す。海水浴客に対する調査では、磯のにおいについては「はい」の回答が大部分であるが、港のにおいについては「いいえ」が多くなっている。磯のにおいで「はい」が多いのは海岸部住民も同様である。一方、快・不快性とにおいの有無の希望の関係について検討したところ、全体的に「快」と答えた人は「ある方がいい」、「不快」と答えた人は「ない方がいい」と答える傾向が認められた。ただし、磯のにおいに関しては「不快」と答えたうえで「ある方がいい」と答える場合が存在し、調査時の聞き取りで「磯のにおいは不快に感じるが、自然に存在するものであり、海らしいからある方がいい」という意見が聞かれ、人工構造物である港と異なる結果となった。

4. まとめ

本調査によって、多くの人々が海辺のにおいを感じており、海辺環境の快適性を考える際ににおいの寄与について考慮する必要があることが示唆された。また、海と接する状況が異なる海水浴客と海岸部住民でいくつかの特徴的な傾向が認められた。今後、本調査の知見を基に海辺における不快臭を軽減し、自然環境が備えるアメニティ効果をさらに引き出すよう適切な方策をとる必要があると考えられる。

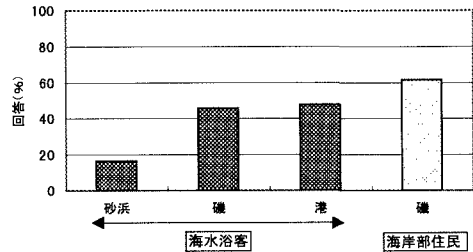


図-2 においを感じる場所(複数回答)

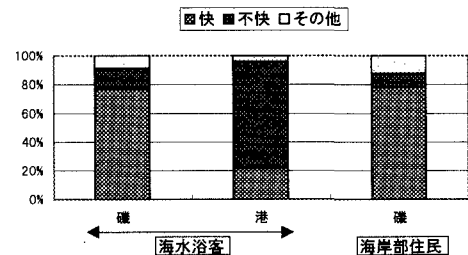


図-3 においの快・不快性

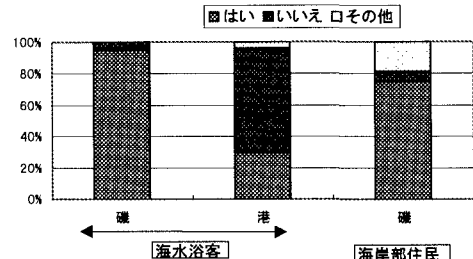


図-4 においはある方がいいか